

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623		
法人名	医療法人芙蓉会		
事業所名	グループホーム芙蓉		
所在地	山梨県笛吹市一宮町「竹原田1359-1		
自己評価作成日	平成15年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成25年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃畑、金川の公園に隣接しているこのグループホームは、広い敷地の中に立地されており、居住空間がゆったりとしている。庭には芝生、花壇があり、入居者も水やりや草取りができる。家庭的でゆったりと過ごすことができる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道20号線の南側に位置し、近隣には多種の商業施設や地元の物産を販売する直売所がある。木造平屋建ての建物は事務室を中心に東館と西館が対称に建てられ、中庭が広がるゆったりとした空間が確保されている。廊下のコン板、食堂の吹き抜けの梁など随所に使われている木材がぬくもりを感じられる。開設から10年を経ているが事業所全体が清潔に整頓されており、利用者のゆとりある生活環境が作られている。調査時も利用者が代わる代わる顔を見せ、その中でコミュニケーションが困難だという利用者は、ニコニコしながら同席していた。管理者をはじめ職員は、おおらかに利用者のありのままを受け止めている日常が察しられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム芙蓉

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所及び各ユニットの玄関に掲示し、共有している。全職員が理念を理解し、それに沿った取り組みがサービスの場面に活かされているとは言い難い。	左記に同じ	法人理念を事務所、各ユニットごとに掲示している。職員は利用者の尊厳を大切に、まず気持ちを確かめてからケアにあたるよう心がけている。現在、全職員がアイデアを持ち寄り事業所独自の理念の作成に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行事の際には、ボランティアや保育園の園児が協力してくださっている。	左記に同じ	区費は納入しているが自治会の加入は認めてもらっていない。地域との関わりは長年の課題であり、事業所としては様々に取り組んでいる。ホームでの納涼会、敬老会などにボランティアや保育園児の協力が得られるようになった。	地域密着型サービスは地域と利用者がつながりながら暮らしていくことを支えるサービスであることを、地域に理解してもらえよう事業所が諦めず地域に発信して行くような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生の職場体験や実習の希望者があれば、積極的に受け入れ、認知症という病気に対する理解を深めていただけるように努めている。	左記に同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。	左記に同じ	2か月に1度開催している。事業所への理解と支援を得るために地区代表の加入を働きかけている。防災が議題での話し合いから、自治消防団への協力依頼へと進んでおり、事業所の状況報告のみにとどまらず具体的な支援に結びつけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の代表の方に、運営推進会議に出席していただいている。市で開催している連絡協議会への参加に努めている。	左記に同じ	介護保険事業者連絡協議会には積極的に参加したり、空き情報を流すなどして関係作りに努めている。市からの協力で災害時、地域の自治消防団の協力体制作りが進んでおり相互の協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束となる行為、拘束廃止の目的については、内部研修などで理解を深めるよう努めている。玄関は自動施錠であり、自由に入出りはできないが、職員と一緒に外へ出られるように対応している。	左記に同じ	法人全体の研修や事業所内での研修で身体拘束について学習を行い、スピーチロックについても学んでいる。職員自身が気付かずスピーチロックにあたる言葉を使う事もあるが、その場合はその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待となる行為や虐待の兆候を示すサインについて、内部研修にて深めている。	左記に同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の連絡協議会の研修などで学んでいる。理解を深め活用できるよう努めている。	左記に同じ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を基に、十分な説明を行っている。不安な点は、随時話し合う機会を設けている。	左記に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、多くの意見や要望を出しやすいうちに配慮している。意見があれば、職員会議で議題に上げ、話し合っている。	左記に同じ		電話の際や面会時に声をかけ、家族が要望や意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。家族からは、室温についてや寝具、衣類に関してなど日常の事柄が寄せられている。それらの意見、要望はすぐに職員全体で共有し希望を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	左記に同じ		法人事務長も参加して月1回の職員会議を持っており、職員の意見・要望が活発に出されている。物品購入や利用者へのケア方法についての意見など、すぐに対応している。職員にも楽しみが欲しいとの要望に答え、食事会が持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を極力聞き入れ、無理なく勤務できるような配慮をしている。	左記に同じ			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加を勧めている。同法人の老人保健施設での研修に参加したり、更に内部研修として活かすよう努めている。	左記に同じ			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会や研修会等で、情報交換を行っている。	左記に同じ			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前事業所との連絡を密にし、情報を得ている。必要に応じては、入居前に自宅に訪問し何度か面会する機会を設けたり、お試し利用を入居前に行い、少しずつ関係を深めていくことに努めている。	左記に同じ			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から、困っていることや要望について聞き取りを行っている。	左記に同じ			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報とのギャップについては、すぐに修正できるように努めている。	左記に同じ			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は、家族であったり、職場の同僚であったり、認識がまちまちなので、個別に合った接し方をしている。	左記に同じ			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に安心して過ごしていただけるように、可能な限りご家族に協力を依頼している。	左記に同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連携し、行きちげだつた場所へは、入居後も継続して連れて行っていただけるようにしている。近所の方や親戚の方も、ホームに来ていただけるように声掛けをしている。	左記に同じ	入居時にセンター方式を使った基本情報を作成し本人の生活背景を把握している。家族の協力を得て、馴染みの理容店や墓参りなどに出かけている。職員は電話の取次ぎ、手紙のやり取りなど細やかに利用者を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きなトラブルを起こさないように見守っている。	左記に同じ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居された方や、他施設に転居された方の面会に行き、経過を見守っている。	左記に同じ		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、センター方式に基づいた聞き取りを行い、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しても、発した言葉や言動などを記録し見直しをしている。	左記に同じ	入居時に本人の、これまでの生活をセンター方式を使って把握し、これに日々の暮らしの中での気づきを書き加えている。意思疎通の困難な利用者は表情から汲み取り、状態がどんな時に変わるのか常に本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に基づき記録している。入居前の生活により近づけることができるように努めている。	左記に同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察記録を、日内変動がわかるようにし、心身状態の把握に努めている。	左記に同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を一番に考え、計画を作成している。状態の変化については、その都度対応している。	左記に同じ	月に1度の職員会議で、利用者一人ひとりのカンファレンス、モニタリングを行っており、職員、本人、家族の意向を汲んだ介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを、より介護計画に活かして定期的に見直すことを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録に日々の様子や気づいたことを記録している。申し送りノートや職員会議では、情報を共有し、計画に活かしている。	左記に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望や家族の状況に応じて、通院や外出など、必要な支援を行えるよう努めている。	左記に同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の紹介で、ボランティアの方を行事などに迎え、入居者が楽しめるように努めている。	左記に同じ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけに受診している方と、往診にて対応している方がいる。	左記に同じ	以前からのかかりつけ医への受診は、家族が対応し事業所からは血圧手帳や本人の状況を知らせ受診結果は家族と事業所で共有している。他に往診医の診療を受けている利用者もいる。歯科も往診にて受診し眼科、皮膚科は職員が受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護にて相談し、アドバイスをいただいている。	左記に同じ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供を行っている。治療期間や退院の目処など、家族と共に医療機関との話し合いに参加させていただいている。	左記に同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「重度化対応・終末期ケアに係わる指針」を説明し、同意書にサインをいただいている。入居者の状態に変化があった場合は、これから想定される状況についても話し合っている。	左記に同じ	家族・本人と早い時期からの話し合いを行い、方針の統一を図っている。状況変化の度に繰り返し話し合い、事業所としての体制を整えていく努力をしている。利用者の重度化への対応や看取りの支援を可能にするためには医療連携が重要であることから往診医を依頼し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、AEDを設置したため、職員全員機器の説明を受け、いざという時に備えている。	左記に同じ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度、防災訓練を行っており、通報や避難経路の把握に努めている。備蓄もしている。	左記に同じ	年2回、昼と夜間を想定した避難訓練を防災設備会社の参加、助言を受けて実施している。マニュアル、職員緊急連絡網の整備、消火器の使用方の確認などを行い、利用者とともに避難訓練を行っている。	災害時での職員一人ひとりの動きを実際にシミュレーションした訓練を重ねながら、それを全職員で話し合う場を持ち、より実践的な訓練となることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには、十分な配慮をしている。入居者のプライバシーを損ねないよう心がけている。	左記に同じ	個人情報に関する書類は事務室内に厳重に管理されている。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう勉強をしている。トイレ誘導や失敗した際などに不適切な言葉や対応があった場合は管理者が注意している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい方に対しては、もっと気持ちを汲んでさしあげる必要がある。	左記に同じ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など、概ね決まりはあるが、体調の変化で決まった時間の行動が不可能な方への配慮は常時行っている。	左記に同じ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの入居者が、今まで着ていた好みの服を着ている。	左記に同じ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には嗜好を伺い、苦手な物は食品交換するなどの配慮をしている。食材切りやテーブル拭き、配下膳ができる方もいる。	左記に同じ	献立は法人の管理栄養士が作成したものをベースに利用者の希望を加味したメニューを作っている。利用者の力に合わせ調理の下ごしらえ、配膳、片づけなど職員とともに行ない、利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が作ったメニューが基になっている。好みや障害に合わせた形態で食事をお出ししている。	左記に同じ		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助が必要な方を把握し口腔ケアをしている。拒否が強い方の清潔保持は常に課題となっている。	左記に同じ		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握に努め、その方に合わせた声掛けや誘導を行っている。	左記に同じ	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレ誘導の必要な利用者には、さりげない誘導を心がけ出来る限り布パンツの使用が続けられるように、根気よい支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(下剤服用・摘便など)をしている。	左記に同じ		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回のペースで入浴される方がほとんどである。入浴時間を、入居者の体調や希望に合わせていたが、改善には至っていない。	左記に同じ	毎日、入浴の準備をしている。入浴時間帯は午後となっているが、利用者の希望に出来る限り沿って支援している。入浴を拒む利用者には声かけや対応を工夫し無理強いすることがないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日当たりが良いため、カーテンや照明でこまめに調節をしている。カレンダーや季節の制作を飾り、四季を感じていただけるように工夫している。	左記に同じ		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報は個人のファイルにあり、職員と共有している。内服が変わった時は申し送りノートに記載し、副作用などが予測される場合は付け加えている。	左記に同じ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの制作や、行事への参加を支援している。嗜好品もできる限り取り入れている。	左記に同じ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に散歩や買い物、外食などの支援をしている。	左記に同じ	お墓参りや冠婚葬祭などは家族の協力で出かけている。春と秋に各1回、季節に合わせた外出を行い外食の機会も作っている。隣地の金川の森公園や周辺の散歩は日常的に行っており、事業所内の中庭は広々として手入れも行き届いており、ここでの外気浴も楽しめる環境にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度を管理してる方はいる。能力に応じて、支払いもしてもらっている。	左記に同じ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望する方には、必要性を考慮し援助している。手紙を書きたいと希望される方にも援助している。	左記に同じ		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良いため、カーテンや照明でこまめに調節をしている。カレンダーや季節の制作を飾り、四季を感じていただけるように工夫している。	左記に同じ	強すぎる日差しが利用者のストレスにならないよう、食堂の吹き抜け天井の明り取りに遮光フィルムを貼ったり、居間のカーテンなども程よい採光となるよう細やかに配慮されている。室内の装飾からは季節が感じられ外出の折の写真は会話の糸口になっている。湿度も調節されて快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・廊下・居間を思い思いに使用している。	左記に同じ		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具・こたつ・寝具・生活用品など持ち込み、居心地の良い場所作りの工夫をしている。	左記に同じ	今まで過ごしてきた馴染みの部屋になるべく近づけるよう本人、家族と話し合い居心地よく過ごせるようつらえを工夫している。配偶者の遺影、家族写真、使いこんだタンスなど、その人にとって、お気に入りの品が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い廊下を自由に行き来できるように、所どころに腰かけを置き、ひと休みできるように配慮している。全体が木目調でトイレや居室がわからず、迷ってしまう方もいる。	左記に同じ		